知的好奇心講座

うだつの数 日本一の町 ―八鹿町

「うだつ」という言葉をご存じでしょうか？

「うだつが上がらない」といえば、出世ができない。身分はぱっとしない。富裕の家でなければ「うだち」を上げられなかったことから転じたといわれる。（広辞苑より）

「うだち」とは、1.梁の上に立て棟木を支える短い柱。2.妻壁を屋根より一段高く上げて小屋根を付けた部分。3.江戸時代の民家で、建物の両側に「卯」字形に張り出した小屋根付の袖壁。長屋建ての戸ごとの境に設けたものもあり、装飾と防火を兼ねる。4.民家の妻側にある棟持柱。（広辞苑より）

「うだち」が転じて「うだつ」になったといいます。つまり、「うだつ」とは日本建築用語で、漢字で書けば「卯建」「梲」と書きます。

さて、この「うだつ」ですが、但馬各地にはたくさん残っています。1991年、岐阜県美濃市の同市職員グループによる全国うだつ調査がおこなわれました。ひとことに「うだつ」といっても、いろいろな種類があるという事から美濃市ではわかりやすいように「本うだつ」と「袖うだつ」に分け調査をし、その結果、「本うだつ」の数が65棟ある八鹿町が日本一になりました。

初代の夢千代さん

脚本家・作家　早坂　暁

『夢千代日記』が生まれてから、もう20年近くになる。

初めは、吉永小百合さんから始まった。もともと、彼女自身が「私のドラマを書いてほしい」とボクを訪ねてきたのが始まりだから、吉永さんにふさわしい主人公づくりからスタートした。

吉永さんの演じる夢千代は、見事だった。演じるにつれ、美しくやつれ、腕も細くなっていく。何か、"がげろう"のように、透き通っていく。

「小百合さん、夢千代さんはあと何年も生きられない人です」

「夢千代にできるのは、まわりの不幸な人たちの話を聞いてあげることだけです」

吉永さんは、本当に精魂こめて、相手の話を聞いた。相手役を圧倒する、静かなエネルギーで、菊奴（樹木希林）や小夢（中村久美）や金魚（秋吉久美子）の話を聞いているのだ…。

あの当時、小百合さんは映画の撮影所に行っても、しばらくは"夢千代さん"と監督たちからも呼ばれていたそうである。

―朝野家社内報より抜粋―

夢千代の里―湯村温泉

朝堅家（あさのや）

TEL 0796(92)1000

八鹿町内にある「うだつ造り」の家々。新町あたりの商店街には軒を連ねて「うだつ」が並ぶ。「うだつ」を活かして改築した家や外灯と組み合わせたものなど、いろいろな工夫が見られる。

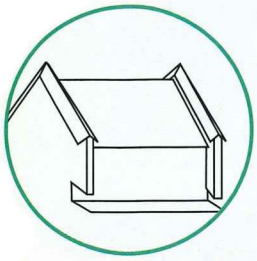
「本うだつ」は但馬各地、例えば、日高町、出石町、村岡町、美方町、温泉町、養父町、関宮町、生野町、和田山町、山東町などで見つかっており、城下町や宿場町として栄えた町をはじめ、農家や養蚕農家にも広く見られます。他にも岐阜県、長野県、滋賀県、京都府、福井県などにもあり、時代的には江戸・明治期の建築が多いそうです。また、この調査で見る限り、「本うだつ」が現存するのは、本州に限られ、その範囲は岩手県盛岡市から私たちの住む但馬までとなっています。

八鹿町の中心部だけでも「うだつ造り」の民家はおよそ30棟を数え、かつて商家として繁盛した家々が軒を並べています。明治後期には、すでに「うだつ造り」の民家がかなり建てられていたようです。昔、「うだつ」は防火壁の役割を持っていたようですが、その効果のほどは定かではありません。むしろ、「うだつが上がらない」といわれるように、「うだつ」は当家の繁栄を誇示するための装飾であったと思われます。実際、八鹿商人たちは競うようにしてりっぱな「うだつ」を構えました。その威容は商人としての誇りであり、心意気だったのです。「うだつ」が残る町は、おしゃれ心のわかる粋な人たちが住む町なのでしょうね。

また、八鹿町は養蚕の栄えた町としても有名です。養蚕のはじまりは古く、奈良時代にはこの地から絹織物が税金として朝廷におさめられていました。八木川沿いでは、切妻屋根の上に小さな小屋根を構えた三階建て民家を多く見ることができますが、これが養蚕農家です。

ぜひ、みなさんも自分の家の屋根や隣の家、町並みの屋根がどうなっているのか、観察してみてください。普段、何気なく歩いている見飽きた町の風景も、見る観点を変えると、まったく違った町に見えてきませんか？新しい発見があるかも知れませんね。

資料：「うだつ」「川灯台」全国調査報告書
八鹿町町勢要覧

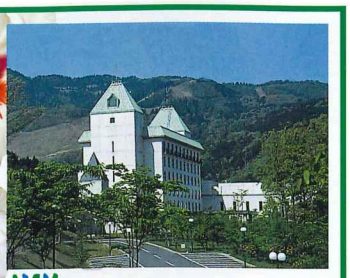


建物の側面に屋根より上に突き出す壁を「うだつ」という。上記のイラストは「本うだつ」。

ひとクラス上の慶びで包まれる
ブルーリッジウェディング

澄みきった青空、緑に囲まれた高原。
芝生のステージに浮かび上がる、
白い御影石のバージンロード。
光を感じ、風を感じ、心ときめいて進みます。
幸せを願い、カリヨンの鐘が鳴り響きます。

セピアウェディングプラン　50名様　820,000円
お一人様追加料金 14,000円　税金、サービス料は含まれておりません。



ブルーリッジホテル
〒669-5372　日高町栗栖野55番地
TEL 0796(45)1200